

[カンボジア国の概要]

- 正式名称 : カンボジア王国
- 首都 : プノンペン
- 面積 : 約 18 万 k m² (日本の約 1/2 弱)
- 人口 : 約 1,380 万人 (2005 年)
- 言語 : クメール語
- 通貨 : リエル (1 米ドル=4,090 リエル、2005 年平均)

[政治経済情勢]

- 1991 年 10 月のパリ和平協定調印、1993 年の第 1 回総選挙を経て復興への道を歩み始めた。1997 年の 7 月武力衝突事変及びアジア経済危機による外国援助や投資、観光収入の減少等により経済が悪化したが (GDP 成長率は 1996 年の 3.5%から 1998 年には 1.0%に低下)、新政権は、経済再建を最大の課題として、財政・森林管理・兵員消滅・行政・社会セクター等の改革に真剣に取り組んだ結果、1999 年には政治的安定の回復とともに経済が好調に推移し 6.7%の GDP 成長率を達成し、2000 年も洪水による大きな被害を受けながらも、5.4%の成長率を達成した。2004 年 7 月に発足した第 3 次連立政権は経済発展と産業育成を最重要政策目標と位置付け、投資インフラの改善と海外直接投資の誘致を促進しており、2004 年から 2006 年には年率 10%以上の成長率 (経済財政省資料) を記録した。

[電力事情]

- 現在、鉱工業エネルギー省の管轄下にあるカンボジア電力公社 (EDC) が全国の基幹発送電、給配電を担っている。また、電気事業法で定められている義務を実行する独立規制機関としてカンボジア電力庁が設置されている。
- 全国人口の約 15%を占めるに過ぎない都市部の電力消費量が全国の電力消費量の約 90%強を占めている。特にプノンペン首都圏地域の電力消費量は全国の 80%強で、近年の年 20%を越える電力需要の伸びは、このプノンペン地域の旺盛な電力需要の伸びに起因している。世帯電化率は都市部 60%、地方部 12%程度で、全国平均で約 20%である。
- 2007 年末現在の電力供給は、IPP からの購入電力量が全体の 85%を占め、EDC 所有の発電所での発電電力量は全体の 13%に留まり、残りはタイ国、ベトナム国からの電力輸入で賄っている。国内の総発電設備容量 31 万 kW のうち、重油及び軽油焚きディーゼル発電等の輸入石油燃料に依存する割合が 94%で、極めて不安定な構造になっている。既設水力発電所は 2 発電所のみで全体の 4%を占めるにすぎない。
- 2006 年の電力マスタープランによれば、2010 年以降は中国を始めとする外国資本による IPP による水力発電所が順次運開すると期待されており、2022 年までの新規電源開発 383 万 kW のうち、50%強を占める 201 万 kW は水力発電が占めている。すなわち、増大する電力需要を、当面は隣国からの電力輸入で賄い、その後は国産エネルギーである水力の開発によって賄う計画となっている。